



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/24 (月)	▲ 200	▲ 5,000	▲ 5,200		国債補完供給 + 9,700 社債等買入 ▲ 400	国債買入 + 22,500	
10/25 (火)	+ 1,000	+ 42,000	+ 43,000	国庫短期証券償還 (6M)		社債買入 + 1,000	
10/26 (水)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000	流動性供給	共通担保オペ (全) ▲ 8,200		日: 景気先行CI指数 (8月)
10/27 (木)	トン	+ 14,000	+ 14,000	各種財政資金の支払い	新型コロナ企業金融支援 ▲ 2,400		欧: ECB政策金利公表、総裁記者会見 米: GDP (3Q)
10/28 (金)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000				日: 日銀金融政策決定会合、総裁会見 東京CPI (10月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債発行等により前営業日比△3兆5,500億円の489兆5,400億円から始まった。その後、国債発行や国庫短期証券の発行償還等もあり、493兆7,000億円 (予想) での越週となった。

無担保コールON物加重平均金利については週初、一部の先が調達に慎重な姿勢を見せ、前営業日比△0.023%となる△0.065%から始まった。その後は徐々にビッドサイドの調達ニーズの強まりも見られ、週を通して同金利は緩やかに上昇し、20日には△0.052%となった。週末3日積みとなる21日についても引き続きビッドサイドの調達ニーズは強く、同金利は△0.049% (速報) まで上昇し越週した。

ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.060%~△0.030%の水準で出会いが見られた。

来週以降の主な予定は、国内で26日に景気先行CI指数 (8月) の公表、28日に日銀金融政策決定会合などがあり、海外では27日にECB政策金利の公表や米GDP (3Q) の公表などが予定されている。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.060 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### <レポ>

足許GC取引は週央まで△0.090%~△0.080%で推移したが、週後半は上昇し、国庫短期証券の発行が行われた21日には△0.075%~△0.070%で取引された。SC取引は2年440・441回債、5年152~154回債、10年350~368回債、20年179~182回債、30年73~76回債、40年12~15回債などに引合いが多く見られた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

### <CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,200億円で、週間償還額 (約7,300億円) を上回った。発行市場は、石油や鉄鋼を中心に幅広い業態で発行が実施された。発行残高は先週末時点の25兆6,885億円から20日時点で26兆2,203億円に増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出会いが中心であった。

来週の週間償還額は、約2兆400億円となっている。発行市場は、月末償還 (約1兆5,000億円) 分のロール発行が見込まれるため、活況となろう。発行レートは、年内エンド物は横這い圏での出会いを予想するが、3月期末越え等の長期間では発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出会いを予想する。

### <TDB>

10月19日の1Y1115回債の入札は、最高落札利回り△0.1018% (前回債△0.1338%)、平均落札利回り△0.1098% (前回債△0.1437%) となり、10月21日の3M1116回債の入札は最高落札利回り△0.1358% (前回債△0.1358%)、平均落札利回り△0.1492% (前回債△0.1511%) となった。

来週は27日に3M (1117回) の入札がある。